

第 1 回 国道 254 号バイパス道路詳細設計検討会の結果

日 時： 平成 29 年 3 月 16 日（木）19:00～20:50

場 所： 志木市総合福祉センター 5 階 多目的室

出 席 者： 委員 19 名（3 名欠席）

第 1 回主旨： 事業の概要やこれまでの経緯を再確認するとともに、今後、道路詳細設計で検討する項目と検討における留意点を共有し、現段階での意見を聴取する。

議事結果（意見・質問と県の回答）：

1. 計画や進め方について

①都市計画を定めた頃から社会経済情勢が変化したが、国道 254 号バイパスの計画は見直されているのか。

→平成 19 年度に、最新データを使って将来交通量を再検証した結果、約 47,000 台/日となったため、当初の「高架 4 車線＋平面 4 車線」から「平面 4 車線」に見直しを図っている。

②多様な価値観や要望があり、全て反映するのは難しいと感じる。県と市が、早々に設計案を提示して、具体的な議論、検討を進めるべきである。

→検討会は、具体的な設計案を検討いただき反映していくために設置したものである。市と相談した上で、第 2 回検討会には具体的な設計案を提示する。

③検討会の目的に、県が道路詳細設計を行うために、地元の方々から意見を聴取するとあるが、反映はしてくれないのか。

→検討会は、県が道路詳細設計を進めるにあたり、市民の意見を反映させるために設置したものであり、資料の記載は修正させていただく。

2. 交差道路について

①国道 463 号と国道 254 号バイパスの交差形式はどのようになるのか。また、志木市区間の立体交差は想定しているのか。

→4 車線同士のため立体交差である。さいたま東村山線は、立体交差の方向性も視野に入れていたが、将来交通量の推計や現況交通量が減少してきたことから平面交差で設計する考えであり、志木市区間に立体交差は予定していない。

3. 横断施設について

- ①富士見川越バイパスの地下横断道路は、幅が狭く、自動車が中心で人が利用できない。志木市の国道 254 号バイパス沿いは学校が多いため、小中学生の安全策をしっかりと講じてほしい。
→自動車と歩行者が安全に通行するには、構造的に分離することが必要で、共存するのは防犯面で良い面もあると考える。上を渡るか下を潜るのかも含めて、今後、検討していきたい。
- ②宗岡第二小学校の通学路は、国道 463 号の羽倉歩道橋などであるが、幅が狭く、要望を出しているが改善されない。国道 254 号バイパスがどのようになるか心配である。
→管内の全ての歩道橋について修繕等を行うための調査設計を行っている。国道 254 号バイパスは 4 車線の道路であり、通学路を中心に立体横断施設の設置が必須だと考えている。
- ③横断歩道橋は、降雪時に滑って危険なため、親が雪かきをするなどして学校に送り出している実態もある。
→降雪時の歩道や横断歩道橋の雪かきは手が回りきっていない。今後の修繕でできるだけ滑らないようにしていくが、雪かき等についてはご協力いただければ幸いである。
- ④横断歩道橋など立体横断施設は、今後、具体的に検討するということで間違いはないか。
→そのとおり。歩行者等の通行状況を確認しながら検討したい。

4. 植樹について

- ①植樹については、死角の発生や維持管理が心配である。高木ではなく草花などを中心に、維持管理も考えて樹種を選定してほしい。
→高木は日陰や環境緩衝の効果期待できるが、県の木であるけやきなどは落葉樹であり、四季を感じるができる反面、大きくなり歩道を狭める課題もある。大きさや配置について十分注意して検討したい。

5. 環境への影響について

- ①平成 20 年度の環境緩衝帯整備検討協議会時に、環境への影響を検討したようだが、最新の交通量での影響も検討する必要があるのではないか。
→最新の約 39,600 台/日で検討した結果、騒音については、以前と同様に対策が必要という結果となっており、今後、具体的な対策を検討したい。

ま と め： 次回は、5月頃の開催を予定する。

以上